

藤中 寛之

「え！折尾にボートが乗れる大きな池があったの？ つつじと桜がとってもきれいで、サルやクマがいて、なんとミニSLやロープウェイもあったの!？」「え、本当？どこに、どんなのが」

30代の私には想像もできなかったのですが、今でも50代以上の方から、1960年頃に閉園した折尾公園の思い出話をよく聞きます。幼き日に家族と訪れた折尾公園、恋人と初めて出会った折尾公園。若き日の淡い思い出が生き生きとよみがえってきます。

現在の学園大通りの西側（折尾4丁目）の住宅密集地に折尾公園はあったとのこと。私は詳しく知りたくて市の図書館や文書館で調べてみました。1960年以前の八幡市勢要覧では、八幡製鉄所や河内貯水池などと共に、観光名所として折尾公園は写真付きで紹介されていました。当時の地図にも折尾公園は表記されていたのですが、安藤金五郎氏の私設公園であったこともあって、動物や遊具などの施設がどのように配置されていたのか、わかる資料がありませんでした。

そこで私は、当時の地図と現在の住宅地図を基に、閉園の4年前から従業員として勤めていた女性と、公園を宅地化するために土木作業員として働きに来た男性から、下記のように折尾公園の施設の配置状況を聞き取り調査しました。お二人は、この折尾公園で出会ったことが縁で結婚されており、当時の写真も多数持参してくれました。半世紀前の記憶なので、写真や地図で確認しながら、たぶんそうだったはず、との曖昧なところも若干あるのですが、かなり正確に把握できたと思います（大感謝）。もし、今後、新たな発見などがあったら訂正していきたいです。

最近、再開発で折尾駅周辺は大きく変わろうとしています。今回から数回、フレスターにて折尾公園の思い出を紹介することで、明日の折尾を考える素材を提供していきたいと思っています。

